

妊婦と豚

幸せに満ちた妊婦の膨らみに  
現代の恐怖すら 感じる

輪郭さえはつきりしていない  
形のない かたち  
頭を下にして漂っている  
たましいの容器が  
やがてこの世に  
しっかりとした  
かたち

として現れることに  
何万年も繰り返されてきた  
生きものとしての人に  
喜びすら感じるまもなく、

これから先  
生まれ落ちた 肉の  
その代わりのように  
詰め込まれてゆく肉が  
僕に  
説明のつかない感情を抱かせているのは  
何故なのだろう

自分の意志ではなく  
生まれ  
育ち  
暑さや寒さも  
飢えや病も知らぬ間に  
生まれ育った豚舎をはなれて  
たどり着いた

社会

生きながらにして 豚は  
喉から胸にかけて  
つきつきと

ナイフで切られてゆく  
心臓の鼓動が力強く  
一滴の血も 容赦なく  
肉の容器に残れないよう  
切り裂かれた喉元へと  
押しやってゆく  
さめざめとした鮮血が  
先を争うように  
下水口へと流れ込み  
悲鳴のない断末魔が  
ひとりの男の手によって

静かに  
行なわれている

死体はすぐさま  
かぎ針に吊される  
流れ作業の中  
内蔵は抜き取られ  
シャワーできれいに洗われたあと  
ベルトコンベアーがそれを  
運び去ってゆく  
手足も落とされ  
赤黒く染まった床に  
目を細めた  
生首とともに 散らばっている

皮はマシーンが仕事

その中身が チェン・ソーで  
左右に離されながらも

手際の速さが

もはや

固まりにすぎない それに

死んだという認識さへ与えず

虚しく

筋肉を動かしている

もはや 豚は

惨殺されることで

生まれる 人の

肉となる

人は死ぬ

病死 あるいは

事故死

が 生まれる

子供は宿る

ひとつの肉体に

ふたつのいのち